

平成 25 年度 認知症介護研究・研修仙台センター運営事業費による研究事業
認知症の家族介護者の効果的支援方法に関する研究

平成 26 年 3 月

社会福祉法人東北福祉会

認知症介護研究・研修仙台センター

平成 25 年度 認知症介護研究・研修仙台センター運営事業費による研究事業
認知症の家族介護者の効果的支援方法に関する研究

目次

はじめに	1
研究者等一覧	
1. 研究の目的	3
2. 方法	3
1) 地域包括支援センター，市区町村自治体等で実施される家族会等の参与観察	
2) 映像教材作成に向けた家族介護者へのヒアリング	
3. 倫理的配慮	4
4. 結果	5
1) 地域包括支援センター，市区町村自治体等で実施される家族会等の参与観察	
(1) 参加した介護者教室・家族会等の詳細	
(2) 参与観察結果	
2) ヒアリングの結果	
(1) ヒアリングの目的	
(2) 対象者の属性	
(3) ヒアリング内容 K.A 氏	
(4) ヒアリング内容 O.B 氏	
(5) ヒアリング内容 O.C 氏	
(6) ヒアリング内容 O.D 氏	
(7) ヒアリング内容の共起関係からの並び替え	
(8) 映像教材のコンテンツ	
5. 課題と活用方法について	37
1) 映像教材の活用方法	
2) 次年度以降の方向性	

謝辞

はじめに

厚生労働省は、認知症施策推進5カ年計画「オレンジプラン」を公表した。同計画では、これまでの病院・施設を中心とした認知症ケア施策を、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられる在宅中心の認知症施策へシフトすることを目指し、地域で医療や介護、見守りなどの日常生活支援サービスを包括的に提供する体制づくりを目指し、具体的な方策がまとめられている。

こうした在宅中心の認知症介護へのシフトは、家族介護者の負担軽減を図るための社会資源開発がなされなければ家族介護者を一層苦しめることになる恐れもある。オレンジプランにおいては、家族介護者の支援については特に、次のような方針を打ち出している。「地域での本人・家族の日常生活支援を強化するため、認知症地域支援推進員を今年度175人から平成29年度末には700人に増やす。将来的には5つの中学校区につき1人、合計2,200人の配置を目指す。また認知症サポーターも、今年度350万人の見込みを、平成29年度末には累計600万人を目指す。また来年度以降、認知症の人や家族、地域住民、専門職などが集う場「認知症カフェ」の普及も行う。市民後見人の育成・支援組織の体制を整備している市町村は、今年度40市町村の見込みだが、将来的に約1,700全市町村で体制整備を図る。」というものである。

すなわち、家族を取り巻く環境の改善と家族を受け入れる場の構築である。

これらの施策の難しさは、家族の個別性がいかに配慮され、そして支える人材をいかに育成するかという点にある。

そこで、本研究では地域の中でより身近な場所で家族の声を聴き、そしてオレンジプランで今後推進されている、認知症カフェやサポーターとの接点となることが期待される既存の家族会等の質向上をはかり、こうした家族支援に携わる人材の育成を図ることを目的として実施した。

本研究では、研究成果として映像教材を作成した。まだ、暫定版ではあるが、こうした教材を用いて各地域で家族支援の人材育成を図ることにより、安心して質の高い在宅介護サービスを利用できるように活用されることを期待している。

認知症介護研究・研修仙台センター
センター長 加藤伸司

研究者等一覧

- 矢吹知之（認知症介護研究・研修仙台センター 主任研修研究員）
- 阿部哲也（認知症介護研究・研修仙台センター 研究・研修部長）
- 吉川悠貴（認知症介護研究・研修仙台センター 主任研究員）
- 加藤伸司（認知症介護研究・研修仙台センター センター長）

研究協力者

川本修二

事務局

- 堀籠修子（認知症介護研究・研修仙台センター 研究事業室担当）
- 工藤靖子（認知症介護研究・研修仙台センター 研究事業室担当）

※○は主担当

1. 研究の目的

これまで在宅で認知症の人を介護する家族を支援するうえでの困難要因は、社会のなかで最小単位の集団で営まれる介護ゆえの密室性の高さや個別性の高さが指摘されてきた。したがって、家族介護者支援や養護者の高齢者虐待の未然防止に関する研究においては、事例研究によるものが多く、専門職による同様に家族介護者への介入方法についても一般化することが難しい課題でもあった。こうしたことから、家族介護者への支援の必要性を測る指標としては、介護負担感の測定や、その介護負担感を軽減する介護の肯定的評価に関する研究がなされてきたところである。しかし、こうした指標によって家族介護者の心理的な側面は明らかになったとしても、そもそもの固有の家族の続柄や関係性を配慮すると、測定値が現場における専門職の介入方法のあり方に直接結びつくとは考え難い。こうしたことから、こうした介入方法については、家族への心理教育や家族療法的な専門的働きかけによるエンパワーメント、もしくは構造的再構築を図るような心理学の専門家による介入が必要とされてきた。こうした潮流は、家族の最も近い支援者として期待される、デイサービスや、ホームヘルパーなどの介護職員が家族関係に介入することを遠ざけ、必要な時に必要な支援を受けること自体を、当事者である家族介護者の機会を減少させてしまう恐れもある。

そこで、本研究は、介護保険制度において家族を支援する既存の支援機能を果たす自治体職員や、地域包括支援センター職員、もしくは、在宅介護を支援する居宅系介護事業所職員の家族支援能力の向上のために使用可能な映像教材を作成することを目的に実施する。

特に、在宅の認知症介護の支援において重要である介護者と被介護者の続柄と関係性等の家族システムの評価に注目し、多様な事例に応用可能でかつ効果的な支援方法を明確にすることを旨とする。映像教材作成には、Olsonらの家族システム円環モデル(circumplex model)を援用し、家族の「きずな」と「かじとり」の度合いの考え方をもとに、映像の編集を行うと同時に、仙台市内で開催されている介護者交流会等を参与観察し当事者が求める支援を明らかにしたうえで行う。

2. 方法

1) 地域包括支援センター、市区町村自治体等で実施される家族会等の参与観察

仙台市内の地域包括支援センターならびに自治体が開催する家族介護者の家族会・家族交流会への参与観察を行い、無記名で内容の記録を行った。この参与観察結果をもとに映像教材で求められる質問項目の選定ならびに、分析に向けた方向性を定めた。

期間は、平成25年7月～平成26年2月まで、上記家族会等に参加した家族120名であった。

2) 映像教材作成に向けた家族介護者へのヒアリング

対象者を、大阪府泉南市在住の家族介護者5名と、神奈川県横浜市在住の家族介護者1名に依頼し、平成26年2月～3月にかけてヒアリングの様子を録画し課題について編集を行った。

3. 倫理的配慮

参与観察については、実施主体である地域包括支援センターならびに、自治体実施担当者に

目的を説明し口頭で同意を得た。また、参与観察では、参加する家族介護者ならびに実施者、そして実施場所等の個人名ならびに組織団体名を記録に残さないことを説明し、記録は研究者のメモのみとすることとした。

ヒアリングについては、ヒアリング対象者となる 5 名について研究目的と記録方法と編集方法等と合わせて、人権保護ならびに途中同意取消の自由等を明記した同意書を口頭で説明したうえで、署名にて同意を得た。同意書の一部は当センターで保管し、もう一部は協力者に保管をすることとした。

なお、本研究は、「認知症介護研究・研修仙台センター倫理審査委員会」の承認を得て実施されている。

4. 結果

1) 地域包括支援センター、市区町村自治体等で実施される家族会等の参与観察

(1) 参加した介護者教室・家族会等の詳細

既存の家族会等の実態と、参加する家族にとって自分自身の介護生活にどのような意味や価値をもたらしているかを明らかにすることを目的に参与観察を行った（表1）。

表1 参与観察対象の一覧

日時	実施主体	参加者数	備考
平成25年9月3日	台原地域包括支援センター	8名	包括職員3名 講話：排泄介助
平成25年9月25日	向陽台地域包括支援センター	5名	
平成25年9月27日	宮城野区認知症高齢者の家族交流会	12名	
平成25年10月15日	南光台地域包括支援センター	35名	包括職員4名 講話：介護体験者の話
平成25年10月23日	太白区認知症高齢者の家族交流会	7名	区職員1名
平成25年10月30日	向陽台地域包括支援センター	6名	包括職員1名
平成25年11月15日	若林区認知症高齢者の家族交流会	4名	市職員1名
平成25年11月27日	向陽台地域包括支援センター	5名	包括1名 ボランティア1名（家族の会世話人）
平成25年12月4日	南光台地域包括支援センター	14名	包括職員4名 市職員1名
平成25年12月16日	青葉区認知症高齢者の家族交流会	10名	区職員2名
平成26年2月5日	南光台地域包括支援センター	5名	
平成26年2月17日	青葉区認知症高齢者の家族交流会	9名	区職員2名

(2) 参与観察結果

【介護者の自身の介護技術のへの不安】

- ・自分自身が介護者としてふがいない、うまくいかない
- ・もっと優しくしなければいけないのはわかるが、ついつい悪態をついてしまう
- ・もっと優しくできないかと自分自身がふがいない
- ・入所したが「騙されてここにいる」と言われ悩む

【将来の不安】

- ・この先どうなるのか不安

【家庭内の問題】

- ・妹と一緒に見ているが、妹の介護がひどい
- ・遠距離介護
- ・同居者の協力が得られない
- ・親が認知症であるが、同時に子供が働かない

【経済的な不安】

- ・経済的に苦しい
- ・病院に通うために交通費がかかる

【介護者自身の健康等問題】

- ・介護ストレスで介護者自身が精神科受診
- ・介護者自身の認知症の不安

【介護に関する情報】

- ・介護保険が役立たない
- ・良い病院はどこか
- ・認知症の人と家族の会での助言に憤慨した
- ・地域に認知症と思しき人がいるが言っていないものか？

【被介護者との関係】

- ・夫が無気力で閉じこもりで認知症ではないかと心配
- ・被介護者の性格が許せない（気が強く嫌なことばかり言う）

【認知症の対応方法】

- ・取り繕いへの対応
- ・昼夜逆転の際の対処方法
- ・見当識障害の対応
- ・被害妄想がある
- ・食事の呑み込みができない
- ・介護者（妻）に過度に依存的でつかれる
- ・ものとられ妄想（こけしが無い）
- ・物事に興味を示さず動かなくなっている
- ・朝の三時に毎日起きてくる
- ・食事を食べてもらえない
- ・物忘れを取り繕い、指摘すると怒る
- ・認知症の本人がこの先どうなるのかを不安がっている
- ・つまみ食いがひどい

【介護サービスの不満】

- ・正月等のデイサービス休暇時の対応
- ・看護師の対応がバラバラで困惑している

2) ヒアリングの結果

(1) ヒアリングの目的

ヒアリングは、映像教材を作成することを目的に実施した。映像教材は、在宅で認知症の人を介護する家族を支援する役割として期待される、居宅介護事業所職員等の研修で使用することを想定して作成した。特に、小規模な事業所等では外部研修に参加する機会が限定されることから、こうした事業所等の職員が短時間で効果的に学ぶことが可能な教材として、映像教材を作成することとした。

(2) 対象者の属性

ヒアリングの対象は以下のとおりであった（表 2）。

表 2 ヒアリングの対象者の属性

家族介護者	性別	年齢	所在	被介護者
K.A 氏	女性	60 代	神奈川県	夫（前頭側頭型）
O.B 氏	男性	60 代	大阪府	妻（アルツハイマー型）
O.C 氏	女性	40 代	大阪府	義母、実父
O.D 氏	男性	60 代	大阪府	妻

(3) ヒアリング内容 K.A 氏

期 間 平成 26 年 3 月 14 日

時 間 120 分間

場 所 認知症の人と家族の会神奈川県支部事務所

①認知症の気づき

65 歳になって会社を退職した時に、退職した時のいろんな書類のこととか自分でできないとか、「おかしいな、こんなことができないのおかしいな」といろいろ思っていて、随分前に脳梗塞もやってたので、それは軽い脳梗塞だったんですけど。それもあつたのと、ちょうど前立腺がんが見つかって、その前立腺がんの検査を受ける時についてに物忘れ外来に行って、脳梗塞も前にやっているの、検査を受けた方がいいんじゃないかって。全然本人も嫌がらないで「まあ、いいよ」ってかんじで行ったんですけど。その時前立腺がんはかなり大きくなっていましたので。それと物忘れ外来で「100 - 7 は？」とかいろいろな質問をされたりとか、検査して脳の MRI をとって、ちょうど前立腺がんの診察（結果）がでて、それと同じような日だったんですけど、物忘れ外来で、まさか認知症と言われると思わなかったんです、本当は。私も主人も。

②認知症の告知時のショックと落胆

「奥さん、たいしたことないよ」とか言われるんじゃないかなと思っていたんですよ。物忘れもあるけれど。そしたら、いきなり「お気の毒ですけど、ご主人は認知症です」って言われて、頭の中で「お気の毒」がぐるぐる回っていたんですけど。その時も、

主人の認知症の母を看っていたから、いわゆる呆け老人、呆けの認知症じゃないかと思っていた。アルツハイマーとか脳血管性認知症とか。そういうことしか知らなかったですから、その「前頭側頭型です」というのも2、3回診察を受けてから先生がおっしゃったんですね。前頭側頭型認知症と言われてもわからないし、先生も「じゃ、一応アルツハイマーの薬を飲みましょう」と、他に何もないので、前頭側頭型の薬なんて何もないので、アルツハイマーのアリセプトを飲みましょうと言われて、アリセプトを飲みはじめたんですけど、それは2年ぐらい飲んでたんですよ。ずっと続けてですけど。ただ、その家の中でおかしいなと思ったのが、その認知症につながるとは本当に思ってもみなかったもので、すごいショックだったんですね。

③治療薬への期待

アリセプトをやめたのが交通事故で入院してその後ですね、他の先生が「これはもう効かないからやめましょう」と。でも、その間の脳神経外科ですか、最初は普通の近くの病院で、その後大きな大学病院の脳神経外科に行ったんですけど。そこでもずっとアリセプト（を飲ん）で。その副作用で下痢がすごいひどくなって、それで下痢止めも飲んで。私としてはわからないじゃないですか、これ（アリセプト）やめて欲しいとも何にも言えないし、これ効くんだ、効いてないですけどね、アリセプト全然効かなかったんですけど、もちろん効く薬はないっていう、それでも飲んでましたけれどね。

④在宅生活中的の障害

まず、テレビのリモコンが使えなくなって、いつも野球見るのが好きなんですけど、野球のチャンネルが決まっているんですが、有線テレビみたいなので302番とか271番とか、それが押せなくなってしまいうんです、番号が。

サン、マル、イチって言ってもそれがサン、マル、イチにいかない。それで喧嘩になったり。それから、毎月年金から私に生活費を自分でおろして封筒に入れて持ってきてくれてたんですけど、それが月に二回とか三回とかくれるようになって「あれ、おかしい、この間もらった」って言っても、それが本人にもわからなくて。そのうちにお金がおろせなくなったって言って、何回も家に帰ってくるようになって、そのカードの番号が入力できなくなってしまったんですよ。銀行のATMに行って。それで、何度もついて行って押し方を教えて「こうでしょ」って言って。で、帰ってくる、また一週間ぐらいしたらまたお金がおろせないと言って。そういうことたびたびあった。

⑤金銭管理ができない

機械だけ置いてあるところありますよね。家の近くにあったのでそこに行って（おろしていた）。それと、後すさまじいお金を・・・、なんて言うか、年金暮らしですから毎月私がおろすお金と主人が使っているおこづかいは限られますよね。それがある日主人のお財布をこっそり見たら6万円が入っているんですよ。なんで、こんな6万円も入っているのかなと思って、その次に見たら、おろしているのが6千円だったり、めちゃくちゃになってるんですよ。それで、そういうお金のことは絶対私に教えなかったり、経済

は自分が握っているという人だったので、寝た時にこっそりカードを借りて残高を調べたりとかしたんですけど、もうめちゃくちゃになっちゃって、一日に6千円ずつ（毎日）おろしたりしていて、そうすると30日でもうすごい金額になって、とても暮らしていけないと思って、そのトラブルが大変でしたね。

⑥金銭管理の障害への対応

もう、真っ青（真っ白？）でした頭の中が。二人の生活がめちゃくちゃになってしまう。年金は決まった額しか入ってこないし、その中でやらなきゃいけないので、これをこのまま一日6千円ずつおろされていたら大変っていうので、結婚してはじめてですけど、まず、主人のお財布をこっそり持ってきてカードを全部期限切れのカードに取替えたんですよ。泥棒している罪悪感でいっぱいでしたけれど、二人の生活を守らなければと思って。

カードでの買い物は一切しないんですが、ただ入ってないとなくなった（と思う）。それから、銀行で毎日おろしていたのがおろせなくなって、それで私は朝主人に「私千円札いっぱい持ってるから毎日お金あげる」って言ったんですよ。そしたら、すごい喜んで、はじめは4千円あげたんですよ。4千円だって毎日4千円はとても大変だから、それを3千円にして2千円にしてって、だんだん減らして行って。でも、もうほんとに喧嘩でしたけどね。そのお金で毎日外でつけ麺とかラーメンとかかつ丼とかもう山のように食べていたらしいんですよ。たばこ買ってコーヒー飲んでとか。使うものはわかっていたんですけど、その4千円ないと食べられないとか、そういうので、私は週一回ぐらいずつお金の金額を減らして行って最後に2千円にして、その後千円ぐらいにして、最終的にはたばこ代とコーヒー代とそれからジュース代ですか、ほんとに小銭を渡すぐらいに切り替えていきました。

たばこ代がないと、小銭は主人にとってはお札じゃないから数えられないんですよ。私が小銭を渡しても数えられないので、あまり怒る時は千円札をあげるんですけど。「これでたばこことコーヒーと飲める」って説明して。怒るとそれ（持っているお金）をバーンとたたきつけるんですけどね。

⑦行動を抑制での興奮

主人はヘビースモーカーでした。いつもベランダにでて吸っていたんですけど、そのころは一日一箱半から二箱ぐらいですね。そのうちに三箱持ってないと、たばこを三つ持ってないと、なんていうんですか、気持ちがいらなくなる、だから一箱なくなって二箱になると、もう一箱買わないと気が済まなくなって、「たばこがない、たばこがない」と言い始めるんですよ。でも二箱は持っているんですよ。「持ってるでしょ」と言っても「いや、ない」って、とにかく「ない」って。「あるでしょ」と言っても「ない」って。しょうがないからお金を渡す。そのうちそれが真夜中になってくるんですよ。夜中にたばこが足りなくなる。着替えて、私のベッドの横に立って「たばこない」って怒るんですよ。「あるでしょ」とか言うと物をたたきつけて、向こうにたたきつけていたのが、最終的には私にたたきつけるようになって。

鍵とかその辺にある物を投げつけて、後イスをたたきつけたり。すごく怖かったです。最初は私にはぶつけないように向こうに投げていたんですよ、それがどンドン、どンドンこっちに向かってきて。

⑧失語による苛立ち

一緒に散歩してて、朝、必ず 6 時ぐらいに起きて一緒に散歩してたんですけど。嫌いだったんですよ散歩するのが。でもいつもたばこ吸ったり、コーヒーショップ行くだけなので、先生は何か新しいことをしなさいとか誰かに会いなさいとか言ってたんですけど全然しないので。(それで) 散歩に行つて、「後 10 分散歩しようね」と言った瞬間にバーンと殴られそうになって「ウワー」ってよけたんですけど。嫌だったんだと思うんです。それが前頭側頭型のあれ(特徴)で説明できないんですよ。「僕はもういやだよ」とか「散歩したくない」とか「これはやりたくない」とか「これがしたい」とか。それが説明ができないので、バーンと手がでる。それはほんと怖かったですね。体もすごく大きいので。だから殴られたら一発でやられると思って。でも私、自分で殴ったこともありましたが主人を、もう喧嘩になって。

ただ主人の気持ちが口にだして言えないっていうのが、私も完全にわかってなかったもので、「何で説明しないの?」とか「何で言わないの?」とかね、つい小言で言ってしまう。「たばこも二つ持ってるでしょう」っていくら言っても、それが病気のせいだっていうのが私にはちょっと理解できなくて。だから、後ですごくかわいそうだったなと思いますけれど。

⑨常同行動：家庭内

家の中ではトイレ行ったり歯磨きをしたり、それが同じパターンで繰り返されたり、たぶんトイレからでてきたら歯ブラシ見れば「あっ、歯磨きしてなかった」って歯磨きをする。終わるとまたトイレ。トイレはとにかくテレビ見てて、コマーシャルになればトイレ、コマーシャルになるとたばここと決まってるんですよ。テレビ見ながら夜中まで。コマーシャルになるとたばこを吸う、だから一日もうたばこ、たばこ、たばこですね。それが終わると今度トイレ、でまたテレビを見る。その繰り返しとか。朝起きると、コーヒーとパンとマーマレード、それだけ、朝は必ず。マーマレードとアイスコーヒーがないと大変です、買いに行ったりとか。

⑩常同行動：外出

後は同じ時間に散歩、同じ時間にコーヒー飲みに行つて、たばこを買いに行つて、新聞を買つて、コーヒーショップに行つてコーヒー飲む。帰つてきて、9 時ぴつたり家をでて 12 時まで 3 時間散歩。

私は行つてくれて 3 時間いないので逆に楽だと思っていたんですよ、いつも同じところに行くし。楽しんで行つているんじゃないかと。でも、帰つてきても、よく考えると汗びっしょりかいて帰つてきて、楽しかったとか、良かったとか一言も言わなかったんで、それで、もう帰つてくるなりシャワー浴びて着替えて、それは自分でやっていたん

ですけれど。だからそれが、楽しくて行っていたのか、それこそ脅迫的な、行かなきゃいけないみたいなので行っていたのかなと、ちょっと（思う）

とめられなかったんですよ。そこをとめようかなと思って他のことをさせると、それを全部終わってから、またそこに行っていたので。全然止められなかったです。

⑪社会生活での問題の発生：買い物の返品

買い物がとにかく大好きな人で、いつも飲むアイスコーヒーがないと真夜中でもとにかく買いに行きたいという人で。で、ちょうど夕方、明日飲むアイスコーヒーがないので買いに行くっていうので、私は500円渡したんですよ。500円あればアイスコーヒーが一つ買えるので。それで、でかけて行って帰ってくるのがかなり遅くかったので、「どうしたのかな？」と思ったら、オレンジジュースと牛乳だけ持って帰ってきたんですよ。アイスコーヒーじゃないから「どうしたの？」って聞いたら、たぶん店の中をかなり探して歩いたんじゃないか思うんです、広いところだったので。「なかった」って言うんで、「絶対あるから、もう一回行ってらっしゃい」ってメモに「間違えて買ったので取り替えて下さい」って書いて、これをレジで渡してお金を返してもらって、それでアイスコーヒーを買ってらっしゃいと。たぶんその時点で、私はそれはできると思ったんですよ。そういうことぐらいは。でもそれはもうできなかった。後でわかったんですけど。それを持ってでかけて、かなり時間たってから戻ってきて、アイスコーヒーを一つ持っていたんです。アイスコーヒーは持っていたけど、レシートは二枚持っていたんです、オレンジジュースと牛乳のレシートとアイスコーヒーのレシートと。で、「じゃ、これオレンジジュースと牛乳はどうしたの？」聞いたら「返した」って言うので、返したとしか説明できないんですよ。しかも「返したの」と聞くとオウム返しで「返した」って言う。「どこに返したの？」と聞くと、とにかく「返した」しか言わない。それで、私は本当に申し訳なかったんですが気楽な感じで、そのレシートをみてお店に電話をしたんですよ。

⑫認知症の症状が周囲に理解されない

店の店長さんが電話にでて、私は「主人が実はこうこう（認知症）で、買い物して間違えて買い物したけど、お返しして、お金を返していただくようにと言ったんですけど、アイスコーヒーだけ買ってきてしまって、（間違えて買った物を）どうもお店の中に返したらしい」と言った瞬間に、ものすごい剣幕で怒りだされて、スーパーの店長さんに。「なんてことをしてくれたんだ」と怒りだして。私はもうそこまで（怒るとは）思わなくて、「もしも、その返した物の中に毒が入っていたりしたら、どうするんですか」と言われ「毒なんか入れてない」「どこに戻したんですか」「いやちょっとわからない、説明ができない」と言ったんです。「すいません、うちの主人は実はこういう病気で、こうこうで」と言ったら、また怒りだして。「なんで、そんな病気の人を買い物にいかせるんですか」って。「防犯カメラがあるから、お宅のご主人、身長がどのくらいでどういう眼鏡かけてるか」とか聞かれて、それ調べればわかるし警察に通報するって言われて。私、ほんとに、泣きながら「もう本当に申し訳ありませんでした」って。頭の中が真っ

白になって泣きながら謝って、そしたら「二度と一人で来させないでくれ」って。「わかりました、もう二度と一人で買い物には行かせません」と。それで、もう品物どころじゃなくて。(電話で) 私が泣きながら謝っていても、主人は全く何のあれもなく、おやつ食べながらテレビ見ているんですよ。

そんな病気の人を何で買い物に行かせたんだっていうのが向こうの方の(言い分)。私も納得しました、それはね。もしもお店の方だったらきっと・・・。ただ、私としては、悪いことだったんでしょうけれど、(毒を入れるとか)そこまで考えられなかったの。警察呼ぶとか言われて、呼ばれてもしょうがないとも思ったんですけど、とにかく泣いて謝りました。だからきっと私がそういうかんじだったので許してくださったんでしょうけれども。

⑬認知症を理解してもらおうための地域への働きかけ

行かせなかったですね。そこのスーパーには行かせなかった。ただ、家の近くのスーパーには、その後で区で出した認知症のパンフレットを持って、それに名前と住所と電話番号を書いて、いつも主人がたばこを買いに行くコンビニと24時間やっているスーパーがあるんですけど、そこに全部、その名前と住所と電話番号を書いたのを持ってあいさつに行って、「実は主人はこういう病気で、(認知症のパンフレットを見せて)見たところ普通の男ですけど、何かあったらすぐ電話して下さい。もしかして、お店の物をだまって持ってきてしまったり、食べてしまったりとかしたらいけないので、その時はすぐ電話をして下さい」って。そしたら、そのお店の方たちは「わかりました」と言ってすごい理解して下さいだったので、前からやなきやいけなかったのかなと。そこまで主人が進んでるとは、ちょっとわからなかったですね。

⑭社会生活の問題：ルールが理解できなくなる

(スポーツジム) ケアマネジャーさんが紹介してくださって、スポーツジムの所長さんも認知症にとっても理解があったんです。一週間に一回は必ず行っているいろいろなトレーニングをさせてもらっていたんですけど、そのうちに、その中のルールが守れなくなってしまったんですね。電話がかかってきて、「実は奥さん、(ご主人)いろいろなルールが守れないから一緒に来てください」と言われて、いつもリュックサックに靴とタオルとかを入れて行くんですが、一緒に行ったらまず男性用と女性用の更衣室に間違えて入ってしまうんですよ。女性用に入りそうになる、それから入り口で内履きと外履きを履きかえられない、外で履いてたまま入ってしまうので、まず引きとめて靴を履き替えさせる。あっと思ったんですよ、中に入ると男性用の更衣室なので私は入れないので外で待ってたんですけど、他の方がでてきて、他人の荷物をあけているとか、そういうこと注意されて、あっと思って「すみません」と言って、その担当の人に入ってもらって。それから中でやっている様子を見ると、自転車こぐのとか終わると、それを直したり(元に戻す)使ったものを拭いたり掃除したりしなければいけないのに、それもできない。最後に名前を書いたり今日やった(運動した)時間を書いたりするんですけど、それもなかなかできていない。これはちょっとまずいなと思って、それで所長さんが「一

緒に来て下さい、見てください」って言うので、「わかりました」と、私付いてくるわけにいかなかったので、「じゃ、ここはやめます」と言ってお断りしたんですけれど。

⑮社会生活の問題：トイレの男女が分からない

外食した時の件は、家族で割としょっちゅう行くところがあるんですが、そのレストランに入って息子たちも一緒に来ていたんですが、「トイレ行く」って主人が言って、いつも行っているトイレなので「行ってらっしゃい」と言って（トイレに）行ったところは見ていたんです。それで、隣に男の方と女の方が座っているテーブルがあって、主人がトイレに行く前に、女の方がトイレに行くのを見てはいたんですよ。その後主人がトイレに行くと言って、私たちはしゃべりながら食べてたら、急に隣の男の方が立ち上がってトイレの方に走っていったんで、その瞬間、私と息子が「あっ」と思って息子もすぐ立ち上がってトイレの方に走っていったら、女性用のトイレに入ってしまったんです。立って用をたせなくなっていたので、うちの主人は必ずボックスの方に入ります。女性のトイレに何の問題もなく入って、空いてるドアのボックスにぱっと入って用をたしていたみたいで。その中に入っていた女の方が、すぐ連れの方に携帯で「変な男の人が入ってきた」と連絡したんでしょうね。私も息子もすぐ気付いて一緒に入って、それでも息子がすぐに謝って「実はこういう病気で、本当に申し訳ない」と言って。女の方もびっくりして、ほんとだったら警察呼ばれたかもしれません。痴漢のように思われても仕方がない。

もうほんとに謝って「こういう病気で」って（説明して）。しかも、主人は何の問題もなくでてきて、それでも私たちもほんとうにどうしようかと思って。でも、ほんとにいい方だったので。お店の方たちも、ちょっと変な顔されてはいたけれど、全然騒ぎにならなくて。なので、最後まで食事もできました。その後からは、トイレに行く時は息子が必ず付いて行くようにしました。

⑯バイクの運転から自転車へ

ずっとバイクだったんですよ。で、認知症と言われてすぐにケアマネジャーさんやお医者さんから、バイクはまずやめましょと、やめた方がいいと、事故を起こして他の人を巻き込んでしまうから、とにかくバイクはやめた方がいいと言われて。そのバイクを中止させるのに一ヶ月ぐらいまずかかったんですけれど。説明してもダメなんですけど、まず私は説明したんですよ。病気だって言われてるからバイクはやめた方がいいと。でも、30年も40年も乗っていましたから、主人にしたら足みたいなもの、車の運転はしていなかった。「俺は病気じゃない、バイク何の問題もない、大丈夫」って。それを説明してもダメなので、鍵をまず隠して。そうすると「鍵をだせ」って。鍵を私は隠してしまっちゃんなんですけど。とにかく「鍵だせ、鍵をだせバイク乗る」って。もう喧嘩になり、怒りだして。本人は理由が分からないので「どうしてダメなんだ、どうしてダメなんだ」って、そればかりでしたけれど。説明しても理解できないですよ。「認知症だって言われたってバイクに乗れるじゃないか、ちゃんと信号も守るし大丈夫だ」って言うんですけどね。やっとあきらめて「わかったあきらめる」と言って。あきらめる

って言ったんじゃないですね、とにかく私が鍵を持っているし、バイク置き場は駐輪所になっててドアが閉まっているから、そのドアの鍵とバイクの鍵がないと入れない。だから（バイクが）見えなかったから良かったんですね。それで、うちに古い自転車があったので「自転車に乗れば」って言ってそれから自転車に乗りだしたんですよ。私は自転車ならいいと思ったんですけど。やっぱり自転車もよくなかったですね。でも、自転車に乗っていた時は本当に気持ちよさそうに乗っていたんですよ、2時間も3時間も。

⑰自転車での周回

同じコースで。最終的に海が見える大きな公園があるんですが、そこまで行って。バスでも20分ぐらいかかる所なんです。だから、バイクならビューっと思えば行けましたから、気持ちもいいし、海も大好きだったので。そこに行って帰りはかつ丼食べてつけ麺食べてソフトクリーム食べて帰ってくる。で、自転車に乗り始めてからケアマネジャーさんに「どういうふうにごどこに行っているか一度付いていった方がいい」と言われて一回付いて行ったことがあったんですよ。それは大変なコースだったんですよ。うちは海の近くの、家をでて山下埠頭という大きな埠頭があるんですけど、その中に入っていくんですよ。関係者以外入ってはいけないんですけど、そこを悠然と入って行って、その埠頭の中をぐるっとゆっくり回るんですよ。そこを私もずっと後ろをついてあいるいて。

自転車でゆっくり。そこをでて、またずっと行って、今度本牧埠頭まで行って、そこから海づり公園というところを回ってシンボルタワーというところまで行くんですよ。40分ぐらいかかるところをゆっくり行くんですよ。その前に、ここでつけ麺を食べるんですよ。私も一緒に行った時、ここでつけ麺食べるって言われて一緒に入って食べたんですけど。完全に同じ道、絶対間違えない、必ずここで横断歩道渡るとか、ここで曲がる、ここからUターンして戻る、だからひき逃げにあった時、私は主人が通るコースを全部わかっていたんですよ。でも、警察の人は「どこで主人が事故にあったかわからない」って言われて、だいぶ抗議しましたが結局どこで（事故に）あったかわからないってことになったんですけど。

⑱周回中の事故：ひき逃げ

その日はちょうどうちにケアマネジャーさんがいらして、9時に家をでて必ず12時ちょっと前には帰ってくる。帰ってこなくて12時半になっても帰ってこないの、私と娘がおかしいからと探しに行ったんですよ。私は主人のバイクに乗っていたので、同じコースを探しに行ったんですよ、ゆっくり走って。娘は自転車で、もしかして違うところを行ってるかもしれないっていうんで、行ってくれたんですけど。娘の自分の自転車で。私は、全く同じコースをずっと通って、両側も見て、最後の広い公園まで行っていないので戻ってきて。うちに戻ってきたら留守電が入っていて、それが病院からの留守電が入っていて。「なにになに様の奥様ですか。もしもお宅のご主人だったら、今交通事故で搬送されてきて、これから手術するからすぐ来てください」と言われて、すぐ折り返し電話したんですよ。で、タクシーで娘と二人で行ったんですけど。交通事故って

うのだけだったんで、救急病棟にとんで行ったら警察官の方が三人立ってらして、「奥さんいたんですか」と言われて。整形外科のお医者さん、看護師さんは「20分で、すぐ手術するから同意書にサインして下さい」と。警察官の方は「ひき逃げだから奥さん事情をちょっと聞かせてくれ」って。もう私、頭の中がパニックで、「ちょっと待って、主人を見なくちゃいけない」と。もう足が血だらけで、寝てなくてはいけないのにぐるぐる歩き回っているわけですよ。お医者さんは訳がわからない、この人はどういう病気なのか。「説明して下さい」って。「実は認知症で、説明してもちょっとわからないから」って。「じゃ、申し訳ないけれど全拘束して手術します」って。「麻酔かけても大丈夫ですか」とか聞かれて、私もわからないけれど、とにかく手術してもらわないといけないってするので、それはお医者さんにまかせて。それから、警察官の方が、実は事故現場に車はいなくて壊れた自転車を持って歩道を歩いていたわけですね。歩道を歩いている、血が点々となっていて、どうしようもなくなって立ち止まっていて足の周りに血の海ができて立っているところに通りかかった人が110番して下さいらしいんですよ。それも本牧のところで、全く人通りのないところなんですよ普段でも。だからその見つけてくださった方も用事があるって、主人が歩いているところを通り過ぎて戻ってきたら主人が立ち止まって、足の周りが血だらけだったっていうんで、警察と救急車を呼んでくださったんですけど。だから警察の方がいった時は、大きな車にひかれたと言ってるんですよ、その時点で。だけど、名前は言ったけれど住所が言えなくて、公園に住んでると言ったらいいんですよ。警察の方は、完全にホームレスだと思って。それで、救急の方が名前はわかるけど住所がわからないんで、でも、病院に搬送していいかどうか聞いたら、偶然がんの時に検査受けた記録が残っていて、「その住所でその名前の方はうちの患者にいます」と言われて。それですぐ搬送してもらって、みなと赤十字病院からうちに電話してくださったんですよ。だから、その時点で誰も主人がひかれた所も見えないし、車も逃げてしまっていないっていうんで。

⑱認知症の人の在宅生活のリスク

警察にも私もうものすごく言ったんですけど、結局見てる人がいない、それから、道路にひいた跡がないと。でも、自転車はぐちゃぐちゃでひん曲がったりして、足も靴がパクッてあくぐらいで、警察の方からは自転車で自分で転んだらろうと、最初言われて、でも、こんなに切れるわけがないんですよ。どこでどうぞ主人が車でひかれたかわからないと、だけど、私は主人はこういう病気だけと、病気の話をしたら、「ご主人の言っている話は信じられない」と言いだされたんですよ。結局主人に聞いても「どんな車だったか」とか聞いても、オウム返しになるだけで、「大きい車でしたか」と聞けば「大きい」と言うし、「小さいですか」と聞けば「小さい」と言うし。「男でしたか」と聞けば「男だ」って言うし。そういう、だから警察にしてみれば、信じられないっていうのがあるんでしょうね。私、その日の晩に救急車の消防に電話して、主人を一番初めに見てくださって、声をかけてくださった人をお願いしますと言って、その方を呼んでもらって、「主人に会った時に一番初めに何と言ったか教えて下さい」と頼んだんですよ。そしたら、コンテナ車のような大型車にひかれて、男の人がでてきたって言って。

しかも 3 千円もらっているんですよ、主人が。だから、その一番初めに話したことがたぶん正しいだろうと思って、それは警察の方に言ったんですよ。で、その 3 千円も全部警察に渡して、指紋をとって調べるとかおっしゃったんですけど。それから、チラシも作って配ったって言われたんですけど、結局（犯人は）全くわからなかったです。

⑩在宅介護の限界を感じた時

交通事故が起きる前、ちょうど 9 月ですね。ちょっとお医者さん替えて、最後にかかった精神科のお医者さんは、息子たちと一緒にいった時に、（主人が）かなり暴力がでていたので、息子たちに「お父さんよりもお母さんを守りなさい」というふうに言ってくれたんですよ。だから、これ以上家にいると暴力が増えて命が危ないから、どこかに転院するとかホームに入れるとか、そういうことを考えて方がいいと言われて。私も夜中にいろんなトラブルが起きたり、たばこのこととか、とにかく一対一ですから娘もいなかったんで、ほんとに怖いと（思った）。

物がこっちに（自分めがけて）投げつけられてきたり、体が大きかったりするんで、これはもうおばあちゃんを見た時の介護とかそういうのと全く違うなという、精神的なもので。そこで初めて前頭側頭型の認知症っていうのはなんなのかっていうのを、わからないのと怖さで、もうこれ以上だめだなとは思ってました。

ただ、やっぱり先生も言葉をにごすんですよ。この先どうなるかっていうのを。はっきりおっしゃらない。たぶん、いろいろな方をみていて知ってらっしゃると思うんですけど、気をつかってかなにか「最期はこうなるよとか、危ないよ」とか、そこはちょっと言葉をにごして、できればどこか施設とか病院に入れることを考えなさいというようにはおっしゃってましたけれど。

⑪家族を感じる認知症の人の素顔

みんなで集まってご飯を食べるとか、私と一対一ではなくて、すごい楽しい、食事に行ったり家で孫とか息子たちが来て、みんなでごはん食べたりテレビ見たり、そういう時はほんとにうれしそうに楽しそうにしてたんで、そういう時を見ると家でまだまだできるかなとか思いましたけれど。やっぱり一対一になると、ちょっと違うんですね。

たぶん、それは安心してだすのでしょうか、わからないですけど。子どもたちが来ていると、一応主人も緊張していたり、いい顔してるというか楽しそうにしているけれど、一対一になると本当の認知症の症状が「ばー」とでてましたから。朝から夜寝るまで、夕方寝るとなると 5 時に寝たり 6 時に寝たり 7 時に寝たり、私がいても電気は全部消してしまうとか、いろんなそういうのがでてました。

⑫近隣の人から理解を得るための方法

社会性がなくなると、ベランダからつばを吐いたりたばこの吸い殻を落としたり。それは何度言ってもだめだし、向かいのマンションの方から苦情がきたり、下の方たちから「灰を落とさないでください」と張り紙があったりとか。うちっていうふうにはこないですが。

マンションの管理組合には、チラシを持って挨拶には行きました。管理人さんとかにですね。理解してもらいました。うちの主人、理事会の役員までしてたけれど、行動がおかしいというのは、たぶん（マンションの）みなさんわかったと思うんですよね。なかなかそれが言えなくてね。

⑳専門職の人から言われて嬉しかったこと

たくさんありました。一番はじめに福祉課につながって、お医者さんからですが。福祉課に行って認知症の申請とか手続きをした時も、みなさん温かく対応してくださって、すぐ次の週くらいに係の方が来てくださって、まだ介護度も何もでてませんでしたけれど認知症と診断はでていましたから、対応してくださって。それですぐケアマネジャーさんを探しましょうと言ってきて。それから、認知症のいろいろな勉強の講座とか知らせてくださって、それで家族の会につながったりしましたけれど。それがなかったら、ほんとにお医者さんだけで、どうしたらいいか、全くわからなかったですから。

ヘルパーさんが、すごく喜んでやってくださって、主人もはじめは嫌がっていたりしていたけれど、野球がある時なんかは一緒に並んで見てもらったりとかね。すごく楽しいとか言ってくださったりとかして。時々主人がヘルパーさんが来てくれている時に帰ってなかったりする時もあるんですよ。電話がかかってくる「ご主人が帰っていない、どうしましょう」って、そういうの何回かありましたが、全く嫌な顔もせずにやってくださった。後、ヘルパーさんに助かったのは、特別養護老人ホームを申込みっていうのは、お医者さんからは「特養は無理だ」って言われていたんですよ。前頭側頭型、ピック病でしかもこの歳で絶対受け入れてもらえない「特養は絶対無理でしょう」と。だから、その専門の病院とか他の有料のところを探す、だけどケアマネジャーさんは「ダメでもともとだから、とにかく申込みしよう」と言ってきて。しかも次の年2011年に横浜市内に5カ所特養が新設して、こんなことは滅多にないので、「ダメでもともとでいいから申込みしよう」と本当に一生懸命言うてくださって。私はお医者さんにダメと言われてるからダメだろうと。でもお金もかからないし申込みだけ、その時ダメなら断ればいいからって。それがほんとに良かったです。

㉑助かったこと

認知症と福祉課がつながるってことも知らなかったの、「福祉課に行っていないんですか？」って感じでした。すぐに対応してくださったのと、ケアマネジャーさんもそうだし、電話相談とか、それから地域ケアプラザっていうのがうちの区に何カ所かあって。

うちの地域のケアプラザとか何カ所かありますが、どこに行ってもいいですよってかんで。いろんなところで、認知症の家族のつどいをやっているというので、そこに何度も行かせてもらって。そこの方も親身になって話を聞いてくださって、ただ高齢者の方が多いので、若年の認知症のつどいとかになるべく行くようにしました。そうしないと孤立してしまう、（若年性は）主人と私だけなので。情報が全然ないというか。ケアマネジャーさんは、いろんな手続きとかもすぐやってくださって。私は週二回は必ずでかけなきゃいけない日があったので、その日どうしようかってことになって、若い男の方

のヘルパーさんが来てくださって、私がでかけた後お昼 11 時ごろに来てもらって、一緒にスーパーに買い物に行ってもらって、お弁当を買って一緒に帰ってきて、主人が食べて、食べ終わるのをみて薬を飲ませて帰るといふ。そういうのを週に一、二回やってもらってました。

私はいろんなことで助けられて、今特養でも本当に良くやっていただいているので。特に入った時ですね、認知症専門病院から特養に移った時、認知症専門病院では完全におむつで寝たきり状態だったんですけれど、新設できれいなところに車いすで行ったんですけれど、車いすの中で主人がかなりもらしてしまっていて、かなりひどい状態だったんですけれど、それで行って、その時の対応も「きれいに洗えばいいんですから大丈夫ですよ」って、何っていうんでしょうか、涙でそうなぐらい（いい）対応してくださって。しかも、そこの今入っているところは、完全なおむつではなくてパットに網パンツみたいのを使っているんですね。私はそれを見た時に、「これは無理です、もれてしまうから」って言ったら「いや、これ洗えばいいんですから大丈夫です」と言われて。なんてこう違うというか、病院とホームですから違うんでしょうけど、救われました。

⑤介護者同士の交流

本当に参考になりました。特に高齢で 80 歳ぐらいのご夫婦の方で、おばあちゃんのご主人を看てらっしゃるご夫婦。そういう方の話を聞くと、わたしよりもっと大変って感じる方がいる。でかけていると浮気してると思われて、警察を呼ばれて、家に帰ったら警察官が家にいたというおばあちゃんがいらして。「もう本当に大変です」と泣いてらしたけれど。こんな方がいらっしゃらんだと、知らなかったですからね、そういう話もね。

⑥振り返ってみて：在宅介護の課題

前頭側頭型の認知症の人が地域で暮らしていくのは、すごく難しいですね。だから、どこまで理解してもらえるか、もらったらいいのか。例えば警察のこととか、お店のこととか、トラブルがありますから。だけど、今考えるともっと早くカミングアウトして「主人は病気ですからよろしくお願ひします」って地域の方に言っておけば、すぐみなさん、スーパーに行った時も「わかりました」と言ってくださったから、もっと早く言えば良かったなという思いはあります。私たち自身が、抱え込んでしまっていました。主人も元気だったから「そんなこと言うなよ」みたいなところもあったので。どこまで言っているか、言ったら主人が傷つくかっていうのがあったので、すごく難しいです。

一人で抱えこまないで、「SOS」ですか、「助けて」と言った方がいいなと思いました。みんな違うとは思いますが、どこでもいいから助けてとか一人で抱え込まないとか。それから、どんな病気なのかっていうのを知りたいですね。だからそういう情報を知る、ただ、どこにどう情報があるかってのは、ちょっとわからないんですけれど、お医者さんたちがそういうのを全部わかってくださっているといいんですけれどね。とにかく、助けてと言った方がいいと思います。

前頭側頭型の認知症の人が、地域の中で生きていけるのかどうか、ほんとに今考えさ

せられるんです。どうしたらいいのか。例えばデイサービスなんかでも、前頭側頭型のデイサービスなんて、ちょっとありえないですね。普通のデイサービスには行けないです。前頭側頭型だけのデイサービスを作るとかしないと無理だろうなと思います。だから在宅でってほんと無理だと思いますね。難しいですね。国に言ったりとか厚労省に言うとか、そういう問題ではないんでしょうね。どうなのでしょう。

それと、若年性の認知症の理解ってのが、まだまだですね。アルツハイマーとの違いも。わからないですよ、本当普通のおじさんがなんですよ。それが暴力ふるったり何か物もってきたりしたら、犯罪になってしまうのですね。許してくださいとは言えなくなってしまいますね。

(4) ヒアリング内容 O.B 氏

対象者 K.A 氏

期 間 平成 26 年 3 月 17 日

時 間 120 分間

場 所 あいびあ泉南

①介護初期の困難と家族の会との出会い

アルツハイマーと言われてから 3、4 年目くらいのころが大変で、女房が何を言っても反抗して大きな声をだす。その頃私も認知症ということをよく知らなかったから。今だったら、こう言った時にこういう対応ができたのになあと思って、その時のことを思ったりはしてます。介護者家族の会に入ったのは一番困った時に入ったんですが、その頃、市に介護者家族の会っていうのがあるって知らなかったんです。なにかで隣市の保健所に行っていたんです。その頃ではなく、別の地域の介護者家族の会がそこでいろんな介護者のつどいなどをやっていたので、私もそこに入れてもらってそこで話して。で、「市にもそういうのあるのかな」って聞いたけれども、そのへんのところ、「市にもあるはずや・・・」っていうぐらいのことだった、別の地域の介護者の家族の会長なんかは。当市にきて今の高齢支援課ですかね、聞いたけれど市は介護者家族の会があるのがわからなかったようで、社協に聞いてくれませんかと言われて、ここに来て話したら、「介護者家族の会っていうのがあって毎月ここで集いもやっているから、いっぺん見に来られたら」と言われて、行くようになって話をさせてもらったり他の人の話を聞いたりして、その時にすごく気分が楽になったのを覚えています。それ以降、女房連れて一緒にここ（家族の会）での食事会とか、日帰りの旅行とか行ったんですけど、私の方を向いている時は大丈夫なんです。介護者家族の他の人たちのところに行ったら、みんなに大きな声であたりちらすというか、大きな声でかみつく。今までの女房では考えられないようなことがあったんで、食事会に行ってもみんなの座っているところの一番はしに座って、私がみんなの方を向いて女房は私を向くと、いう形にして食事させたりとか。日帰り旅行でのバスの中での行き帰り、ずっと大きな声だしてるんですよ。そういうなんでも反発するってところが一番困った時です。

②在宅介護の限界を感じた時

女房がアルツハイマーだって言われた、今から数えて3年7か月前ですが、女房自身は4、5年前から気づいていたみたいです。物忘れが今までと違うおかしいっていうこと。あることで田舎に帰った時に、女房が言ってることを妹が聞いていたんですね。それを妹から聞いたのは、アルツハイマーって言われてからかなりたってからなんですけれど。その時の言葉を聞いて……思い出すと涙がでてきて……

それで、ずっと見てやろうと自分に決めましたので、それで見ていたんですが、自分が「がんかもしれないかも」ってことがあって検査に行ったけれど、(実際は)がんではなかったんですけども。その時に、これから先どうなるかわからないから、家で見ていたら、もし何かが(自分に)あった時に女房がかわいそうだなと(思って)。それで、それまで行っていたデイで話したら「デイの入居者の一人が昨日亡くなったから今日から空いたよ」って言われて。先のこと考えてその時に「お願いします」って言ってそこに入れてもらったのが、一昨年の3月でした。その後、私手術しなければいけないことがあって、2週間ほど入院しましたが、その時に女房のこと気にすることなくできたのが良かったかなと思っております。そういうことがなかったら、今でも続けていたと思うし、今それを続けていたら自分が健康な状態でいれたかどうかかなあってというのは思っています。

③治療薬の不安

徘徊とかするような時が一番大変な時でした。お医者さん行って状態を話すと「薬だしましょ」って薬はだしてくれるんですね。なんか言うともう薬薬で薬漬けみたいになって、そのうちに体が右に傾いたり左に傾いたり前から後ろからもうずっと傾いた状態で、それが薬の副作用だろうってことだけはわかってはいたけれど、どれがそういう作用するものかわからなかった。お医者さんに相談しても「薬は飲ませないと」ってことになるだろうと思ったので、お医者さんには言わずにアリセプトだけは飲ませておいて、他の薬全部やめてしまった。やめて1か月ぐらいはアリセプトだけでいっていたら、傾きがおさまってきたんです。で、その後その他に飲ませた4錠の薬の一つを飲ませていると、しばらくするとまたその状態がでてくるんですよ。それをやめて、また2週間3週間1か月たって、次の薬を飲ませたらまた同じような状態がでてくるんです。ですから、それ以後はアリセプト以外はもう全部やめました。それから体の傾きとかそういうのがなくなったので、先生にも「やめたんです」と話しました。

薬飲ませるとか飲ませないとかいうのは、本人が、うちの場合は本人が決めるわけにいかないから「看てるご主人が決めたなら私らもそれでいい」ということで、それ以来、今はあの時のそういうような薬は一切飲ませていなくて、アリセプトとメモリーを飲ませていましたが、去年の12月に昏睡状態に陥った時に、ここの近くの病院の先生が「しばらく薬もやめてみようか」ってまったく薬を飲ませてなくて10日ほどなんですね。10日ほど飲ませていなかったその薬があったものだから、アリセプトとかメモリーってどれぐらいのものだろうって思って、いろんなことは聞くけれど自分で試してみようと(飲んだ)。メモリーを飲んだら、結構調子が良かったです、体調が。さえない頭がさえ

るようで、それは良かったんですけど。それでそれがなくなってからしばらく何もなしできて、その後アリセプトを飲んだんです。

それを飲んで、10錠ありましたから7錠ぐらい飲んだあたりで、夜も眠れないんですよ。

その時私も寝られないから睡眠導入剤を飲んだけど、全く効き目がないんですよ。「これはちょっといかな」と思って、(飲むのを)やめて、夜飲んでいたアリセプトの残りの3錠を朝飲むようにしたんです。昼間だったら眠れないとかあってもいいと思って。割合それがいけたので、認知症のことでいろいろやってくれている先生に(言ったら)「私も患者さんにすすめるのはアリセプトは朝っていうことですよすすめているので、それでいいんじゃないか」ということで、アリセプトは朝、グループホームで飲ませていただいて、そのようにやっています。薬の副作用ってこんなにあるのかなと思って、それで女房がそうやって飲んでいる時の状態で、ある時夜も寝られなくて睡眠導入剤を2回飲ませたことがあったんですよ。それで階段転げ落ちて怪我したりとか、そんなことがあった。「こういう状態だったんだ」とてことを身を以てわかりましたし、女房がそれで階段から落ちた時2錠睡眠導入剤を飲ませましたので、その後どれぐらいのものかと私も飲んでみたら、かなりきついですよね。「これはこんなもの2錠飲ませたらあかんは」と思いました。先生に話したら、なかなか自分で飲んで試してみる人はいないので、医者にとってもいい意見ですと言ってくれました。

④排泄介助の問題

オムツつけはじめたころは、まだわかっていたから、「オムツ」と言うと「オムツと言わないで」とて。だからオムツのことでも家ではパンツと言っていた。途中からまったくわからなくなってしまったけれど。

おしっこが少ない時でも、家では20回。多い時には30回近くあった。そのころはまだ自分でもわかってるころなので、トイレ行っておしっこしてでてきて振り返ったらもうまた入っていく。おしっこがしたいからとか、そういうことじゃないのかなと思ったりしたけれど。そんなんで、そのころで一番困ったのはそれでしたね。トイレが20回から30回。多い時で30回。夜までで寝るまでで。便に困ったのは月に7、8回失敗していたこと。2週間ほどでなかった時、お医者さんに行ったら「それは大変だ」とてことで浣腸をくれたんですが、浣腸をしてもどれぐらい後からでるか分からないので、でたら「ドバーっ」とでるので、それで困って糠を使うようにしました。それが良くなってそれを使い始めて4日目から順調にできるようになったら、そしたら女房の機嫌も良くなってきて。便秘がなくなったから機嫌が良くなったんだなと思って。それからは楽にできるようになりました。いまだに糠は食べさせています。

⑤自分自身の将来不安と被介護者のADL低下に対する不安

お金は困るから、僕らは二人だけだし子供らは独立しているから子供のことは考えなくていいから、自分の裁量でできるからいいけれどね。やっぱりお金のことは、年間通してこれぐらいでおさまったらっていうような形で。こっちもいつまで生きていられる

かわからないし、女房の、そのアルツハイマーの場合 10 年から 15 年って、この 8 月で 13 年目になるので。

今一番困るのは女房がご飯を食べないっていうのが一番困っています。持っていても口開けないし、今日も行ったけれど今日はもう無理だと思って「あともうお願いします」って置いてきたけれど。夜寝てなくて眠たいような時はなかなか（口）開けても食べないっていうことがあるので食べてくれないってことが一番困る。看取りまでお願いしているけれど「もし胃ろうしないといけなくなったらどうしますか？」って聞かれたけれど「胃ろうまではするつもりはない」って言ったけれど実際その場になったらわからないと思う。気持ちのなかではそうだけど。経済的なことは結構みんな困っていると思う。

⑥介護サービスへの不安感

私の場合は診療所行って、デイ、今のグループホーム、ほんとに周りの人に上手にしてもらって、自分はいまよくいってるなと思ってありがたいと思っています。途中デイはいくつか不満もあったのでデイは 3 つほど変わりましたが。行って帰ってくるころにはあざ作って帰ってくるのがあって、でもどこまでが虐待になるのか、必要にかられてそうなったのかわからないこともあるけれど、携帯で写真とって今も保存している。手の跡がこうやって（ゼスチャー）掴んだんだなっていうのがわかるように跡がついてる時もあったしね。

⑦介護サービスの利用について

施設（デイ）行って、前は連れて行って迎えにいていた。玄関にでてくる時にもう臭いしているのがわかる。それまでみんなと一緒に座っている。「これ、座っていたら周りの人わかるだろうにな」と思って。もう迎えにくるだろうと思っておかれているんじゃないかなって思うようなことも何回もあったし、で、いろいろあざつくった時、デイの方も大勢おりますよね、玄関まで送ってくれる時に手をひっぱってもらって一緒にでてきてくれる人もいるけれど、手を払いのける人もいた。「あのあざ、この人だな」ってこっちでだいたいわかることもありました。そんなんで変わったりしたけれども、変わったところのデイが、なにかあったら電話がかかってくるですよ「奥さん倒れました」とか「奥さんこうこうで・・・」とかしょっちゅうそんなことで電話かかってきたりとか。「今日は責任者の方の家族にご不幸があって葬儀があるから明日休ませてもらいます」とか「今夜は 3 時からお通夜だから休ませてもらいます」そんなんだりして。デイにもそういう注文(?)はありました。

⑧介護サービス事業所への希望

今行っているところは結構もう良くやってくれるので、だいたい満足していますが、できるだけ昼は自分で食べさせてやろうと思って、行って食べさせて歯はちゃんと磨いてあげないと思って、それだけはやってるんですけど。オムツなんかでも、結構おしっこやなんかして（交換して）、ちゃんとはかせてくれる人もいるし、それが普通多

いんですが、そうじゃない人もいているんですよ。下着を上にてたまんまとか、この寒いのでたまんまとか。職員の方は暖房のきいたところで冬の間でも動き回っているから結構暖かいと思うんです。でも女房なんかは、ずっと座ったまんまで、行ってみると鼻がでてる。中にはそこまで気づいていないというか、そういう人もいるので、そういうふうなところをもうちょっと気遣ってほしいなっていうのはあります。私は今行っているところ、うちの離れだと思っているから。ちょっと遠いけれども、女房は離れに住んでいるんだと。よっぽど何かで行けない時は仕方ないけれど毎日行っ。ご飯をもっと食べてくれたらなと今思っている。だいたい一時間半前後（食事）にかかるので、それを施設の人についていうのは無理なことなので、昼だけでもゆっくり食べさせようと思っ。って行ってます。

⑨介護をしていて嬉しかったこと

近所の人、近隣の人に話して、私の知らない人からでも「奥さんどうですか？」と言っ。って声かけてくれるのが良かったですね。寺下さんと同じように、介護者家族の会にきたのも、あの時は一番困ってる時精神的にね。自分自身でもなんとか発散するところがないかっ。ってことで行って話聞いてもらったというのが、ものすごい楽になったという（記憶）のが今でもあります。今の味彩の会、男の会の中でも、今来てたCさんともう一人ずっと50年子供さんを介護しているご夫婦がいて、後の人はだいたい奥さんを介護していたって人が多いんですけど、味彩の会男の会では。奥さんが亡くなって、みんなが言ってるのが、ここへ来て話を聞いてもらったら楽になったとみんな言っ。ってます。奥さん亡くなって今は一人だけまだここに来ていいかっ。って聞かれるんです。「ぜひ、来てください」って来てもらってます。やっぱり、人に聞いてもらっ。、それも同じように介護していたとかそういう経験のある人に聞いてもらっ。っていうのが、その言っ。ていることがみな伝わって、ほんとに「大変やな」って言っ。てくれるのも心がこもっているというかね、そういうふうにいる。

(5) ヒアリング内容 O.C 氏

対象者 O.C 氏

期 間 平成 26 年 3 月 17 日

時 間 120 分間

場 所 あいびあ泉南

①認知症の気づきと戸惑い

今は自分の親を看っていて、父親は認知症なので施設に入れたんです。その昔は、姑を看っていて、一番最初にこの会に入ったのは10年以上前に姑を看っていた時に、まだ介護保険がはじまる前ぐらい、ちょうどはじまるころ、おかしい症状がでてきて誰にも相談するところがなくてすごく困っていたところを、たまたま近くにある堀病院というところで、姑を受診させた時に何気に壁を見たら「介護で困ってる人はご相談下さい」と書いている張り紙を見て、はじめて相談に行っ。てというところで。この会を知ったのは、

施設のデイサービスの利用することで市役所に相談に行った時に、壁に介護家族の会があるので「よかったら連絡下さい」というのがあったので、それが最初で、その時はまだ（自分が）30歳過ぎぐらいで、まわりや自分の友達には誰も親を介護している人はいなかったし、下の子はまだ保育所行って小さいかったので、姑は徘徊もあって、（先程）言っていたように気が荒くなって物を投げたりだとかされて、自分がそういうので思いあまってそのうち本当に手がでるのではないかと自分で感じて、すごく怖くて。

②介護役割の引き受け過程

ショートステイを利用したらどうかとかアドバイスうけながら、3年か4年ぐらい家で看てて最期は特養に入ったんですが。その時の経験で、今度自分の親の時は手順がわかっていただけ、離れたところに住んで私は女ばかりの兄弟だったので親を跡取ってみるという状態ではなかったの、誰がみるかっていうの・・・、姉は困った時は親のところに来ても、親困ってる時は「私忙しいから」ってかんじで。父親がちょっとこの頃おかしいからって遠くの病院行くのに母親が連れて行ってたけれども、「ちょっと一人で連れていけないから連れて行って欲しい」と頼まれたけど、家がA市だったから高速で行っても1時間ちょっとぐらいかかるので。最初は一ヶ月に一回の診察を朝5時に起きて向こうまで行って、間に合うように連れて行っていただけでも、それを一年程したらこっちの体がやっぱし（大変）、行くまでに事故にあわないかなとかっていうのもあって。で、主人が、今ちょっとでもお母さんが元気なうちにこっちに呼んでこっちでみた方がみやすいだろうからと言って、こっちに来てもらったんですが。

③施設入所と娘としての葛藤

一年程は父親も母親と一緒に暮らしていたけれど、認知症がだんだん進んできて、しょっちゅう母親から「今おとうちゃんこんな言うてわからへんから来て」とか、朝でも晩でも（電話が）かかってくるようになって、そんなところにたまたま申込していたグループホームから「空いたけど、どうする？」って話がきたので、まだ入れるほどではないかなと思ったけれども、もしこれで母親が倒れた時に父親をみれる状態になかったらどうしようもないと思ったので、入れることにしました。そしたらやっぱり姉からも「早々入れて」とか（言われて）。父親には妹がいて、そのおばさんからも「そっちに行ったかと思ったら、兄ちゃんはこのなとこに入れられて」と言われたけれど、母もあちこち（体が）悪いから母親一人で四六時中みるのも大変だったし、私も仕事をしているので日中みれないです。朝晩は様子見に行っても、やっぱりみんなが倒れてしまってからではあかんから、父にはかわいそうだけれど、こっちに来て一年程で空いたので入れたけれど。夏ぐらいまでは私が行っても帰りがけいつでも見送ってくれて、娘だとわかってないかもしれないけれど、「気をつけて帰れよ」って言ってくれていたのが、去年の夏ごろから全然そういうのもなくなって。今はもう（GH）行っても目の前に立ってても気がつかなくなったり、自分が何かしていたら全然（私に）関心もしめさない。最近は毎週ごとにこけて、あちこちに痣つくってるかんじで。ただ内臓は元気で頭だけなんだけど、年齢も年齢だから、「ここから10年もな～」とは思いますが、グルー

ブホームに入ったら長くなるじゃないですか。他の自宅で見ておられるみなさん方に比べれば（自分は）まだ若いですが、年齢的にも更年期にさしかかってきて、自分の周りでも若くて心筋梗塞で亡くなった人の話なんかを聞いたりすると、自分の健康も最近不安になってきてて。そうすると、親がすごく長生きすることも一人になるといろいろ考えたりして。で、そのいろいろ考えてる自分を、また別の自分が見た時に「人としてどうなの」って気持ちもあって、でもそういうのって誰にも言えない。まして兄弟には言えないし。

④娘介護者としての規範的拘束性

兄弟はたまに一年に一回に来て、自分のいいことだけ言って、ちゃっちゃときてちゃっちゃと帰る。来ても台風みたいで「明日行くから」って言われて母親に「明日来るって電話あったけど」と「お昼どうするか聞いた」「聞いてない」って母は言うし「お昼どうするか聞かないと、私仕事だから準備できないよ」「食べに行くって姉ちゃん言ってるから連れてってもらはうは」って言うけれど。ゆっくり一日居てくれるのかと思うと12時過ぎぐらいにきて3時には帰ったっていうし。何しに来たのか、たまに来たらちょっとは親の話もゆっくり聞いてくれたらいいなと思うけれど。そんなして帰るもんだから、その愚痴を私が聞かなくちゃない。行っても同じ話を永遠に聞かされるけれど、それを「この間も聞いたよ」って言うと、姑の経験から母も認知症になったら困ると思うから同じこと何べんも言われても「あ～そうやったん、よかったな～」って、それをずっと繰り返さなければいけないのがまたしんどかったり。でも、誰も変わってくれる人がいないから、自分は一人娘だって自分に言い聞かせながら親をみてるけれど、そう思いかせて自分で納得しかかったところに、ひょこひょここと「姉ちゃんから電話あって」って聞かされると、「も～！！」と思つて。姉ちゃんにすごい母親が気をつかって、「あんまりこんなこと言うと、あの子すぐ怒るから」とかって言つて言わないこととかあるから、「もっとそんな姉ちゃんにして欲しいことあったら、言わなあかんで」って言うと「そんな言うて、もう来てくれへんかったら困るし」って。今も十分来てないって思うけれど。家でみてないから家でみている人に比べれば全然だけど、気分的には気が休まれない。ていうか、いつも母親のことも一人で暮らしているから「ちゃんとご飯食べてるかな」とか、それこそ「生きてるか」とか。たまに8時ごろ朝見に行つても、前の日寝にくくかったかすごい寝てる時があつて、ドア開けて入つても全然気がつかない時があるので、息してるか見て「生きてる生きてる」って思つて帰ったりすることもある。ちょこちょこ様子見に行つたりとかしなきゃいけないって思うのもしんどい。で、みてない人は簡単に「そんなとこ入れて」とか「そんなほつたらかしして」って言うけど「そう言うのなら、いっぺん自分みってみろよ」って思う、勝手なことばかり言うから。終わりが無いから、後何年ってゴールが見えてたらがんばれることが、ゴールがみえないだけに永遠にがんばらないといけないけれど、あんまりがんばり過ぎててもあかんと思つて手をぬくかんじにすると、「でも今日が最期だったらどうしよう」っていう気持ちもあるから、それもでききれないかんじで、気分的には仕事して気分転換できているけれど、「しんどいかな～」っていうかんじですね。

⑤嫁の役割と家族関係

姑の時は本当に何も、自分がおばあちゃんというのも自分自身が自分のおばあちゃんと一緒に暮らしてなかったですし、認知症なった、いわゆる呆けたような人っていうのは全然知らなくて。姑との関係も恥ずかしながら良好ではなかったの。すごい厳しいお義母さんで、すごくきっちりしたお義母さんだったから。最初「電話を勝手に買い換えた」とか「あれを勝手にどうした」とか言われたけれど、全然そんなことないしずっと同じものだけど、(そう)言いだして、「おかしいな、おかしいな」と思って、主人に「病院連れていった方がいいじゃないか」って言ったけれども、主人も主人の姉もしっかりしたお義母さんだから「そんなことないよ」って。やっぱり自分の親だから認めたくないのよね。

⑥診断が遅れたことによる BPSD の悪化

そうやってどんどんどんどん病院に行くのも遅くなって、もういよいよおかしいって連れていった時には「もうちょっと薬でゆるやかにするぐらいで、これから進みますよ」って言われて。その時にはもう過食と徘徊があって、仕事から帰ってくると家の中が泥棒が入ったみたいにタンスがひっくり返っている状態っていうかんじで。病院からの薬飲ませたけど、飲ませたらゆるやかになる分感情の起伏がすごく激しくて、しょっちゅう怒ってるし、ポーっともしてるし、なんかもうみるのもしんどかったから、もうそれだったら、どうせ治らないんだったら薬飲ませないで自然にまかせようって、薬飲まなくなったらちょっとおとなしくなったんで。よその家にゴミを捨てに行ったりとかしたので、あちこち謝りに回ったりもしなければなかったし。知らない間に家をでていってなくなって探さなければいけませんとか。というのもあったので、晩も寝られなかったし。その時もずっと仕事をしていたけれど、結局睡眠時間がほとんどとれないまま仕事に行っているの、ちょっと仕事にうつうつしたのを見られて「同じように給料もらってる人に申し訳ないって思わへんか」って言われて、これからどんどんひどくなるだろうから、ちょっと続けるのも大変だったから、その時は辞めたんですよ。

⑦介護と仕事の両立の不安感

今の職場でも認知症の人や親をみてる人は誰もいなくて、みんな幸い親が独立していたりだとか、お兄さんがみてくれているとかで、私の周りで親をみている人はいない。今の職場でも介護休暇っていうのが一応あるけれど、実際にはたぶんとれないです。今も人をどんどん減らしていったって事務も簡素化にしているところだから休めない。親のことで休まないといけないことがあるかもしれないと思うと、絶対自分の病気では休めないと思うから、とにかく健康には気をつけてるのはずっと思っています。今のところ、父も施設だし母親もなんとか元気には、足腰悪くて今だいぶ歩けなくなってきたけれど、一応一人でなんとか生活しているので、ちょこちょこ様子見に行くぐらいでいけてるけれど。これから先どうなるのかなって思うといろいろな不安はありますね。

⑧言語流暢性や失語、見当識障害による排泄介助の問題

姑を看てる時に私もトイレとお風呂がすごく困った、初めての経験だし。部屋から出てきてトイレのドアをガチャガチャするから、いきたいのかなと思って「おしっこ行きたいの」って言ったら、「おしっこ」っていうのが何のことを言ってるのか理解してもらえなくて。「何言ってるの」みたいなかんじで「ちやうよ〜」って部屋に戻るけれど、またすぐでてきてガチャガチャするので、「いっぺんとりあえず座ってみようか」って座らせるけど、たまってはいるかもしれないけれど、だそうとしないからでてこなくて。じゃ、もうちょっとしてからとパンツを上げて部屋に戻ったら、もう流す(漏らす)みたいなんですし。一回夜中に起きた時にトイレ流そうと思ったら水があふれてきて、あわてて業者に来てもらったら、自分のシャツを脱いで流したみたいで、肌着が中で詰まっててることがあって。業者に来てもらうと何万ってお金がかかるから、しょっちゅうかかると困るので、トイレ行く時は一人で行かせたらダメだと思って、いきたくなくなった時にわかるようにと思って、トイレに鍵をつけて「声かけてな」って言ってさせたけれど、それでも(声かけずに)トイレにいきたいけれどもうまくいけないっていうことで、もう部屋の中はいたるところに跡があるし。それで紙パンツをさせようと思ってはかせたけれど、そのころ何でも破る(くせ)ことがあって、パンツはかせていても気が付いたら紙パンツ破られた残骸が部屋に散らばっててとかあるので、口に入れたらダメだと思って普通の布のパンツにして。夏の暑い時に朝二階から降りてくると、階段の真ん中あたりからおしっこの臭いがするから「何かな?」と思ったら、玄関先がおしっこで水浸しになってることがあって、そういうことがずっと続いて、毎朝毎朝そう。そのトイレが大変なのと、言葉が通じないのが大変で。お風呂でも足も達者で手もよく動くけれど、ちゃんと意思を持って使えないので、お風呂入るのも、お風呂入って座って洗うということもわからないから、全部ついて体も洗って、「前は自分でこうして洗うんや」って目の前でやって同じようにさせてっていうのをずっとやってました。うちも過食があったので、もともとそんなに大きい人じゃなかったけれど、途中70キロ近くまで太って、そしたら浴槽からだすのが重たくて重たくて、ほんと重たくて自分がもうお風呂入るのが嫌になるくらい、入れたら疲れてしまって。そのころはまだデイサービスに行っていない時だったからお風呂毎日入れなかったら、おしっこたれてるから汚いからと思ってやっていたけれど、それが姑の時はずごく大変でした。

⑨過食

過食もあったから、仕事から帰ったら玄関先に生の芋とかいっぱいかじったのが転がってて、それ見た時に、その芋とかも床下収納庫に入れていたのを開けてだしているの。それも(その時に)扉で頭うったらもう危ないと思ったし、生を食べてるから。冷蔵庫中の物も気が付いたらジャムもマーガリンもいつのまにか空になってるから、これはあかんと思ってあっちこちに鍵というか小さい子が勝手に開けれないようなのを探してきていっぱい付けて。そのうちに床下収納庫も開けだしたのでリビングも全部閉めて、徘徊があるので玄関の鍵も開けられないようにしたけれど、力づくで開けていくから縄でひっぱって絶対開かないようにしたりとか、そういうのが家で看てる時は結構大変でした。

⑩経済的問題

自分の親はそんなに家でじっくり見たわけじゃないから介護自体は自分の体がえらいつてことはないけれど、うちの親の場合はお金が（大変でした）ね。娘しかいないのに、ゆくゆくは子供にみてもらえない可能性の方が高いのにお金をおいてなかった。蓄えがない、蓋開けてみたら「これしかないの」みたいなかんじだったので。今はもうグループホームに父が入っていて月10万以上かかる、最初二人暮らすための部屋を借りたのでそこが一月6万ぐらいかかる、今母一人で暮らしているけれど。二人の年金でグループホームと部屋の家賃と生活費とかもろもろ払って、母のデイサービスのお金とかいろいろ払ってして生活費を渡すと、もうほんとに残らない。なのに、父の紙オムツ代がすごい。一回紙パンツ使うとダメですよ、垂れ流しだから。ああいうところは、ちょっと汚れたりちょっと本人がはずした紙パットも汚れてなくても一回はずすとそれは二度と使わなくてさらに別のを使うから、どんどん紙オムツ代がかさんできて、去年は父親の医療費よりも紙パンツ代の方がかかった状態でした。単純に計算して月ざっと、年金マイナスなんぼで、蓄えをだしてるとなると計算した時に「10年二人長生きしたら、どうする？」みたいな。ほんとにね娘として、そういうことを考えるのが、第三者でみた時に「なんて娘やろ」って思うけれど。いつもそうやって親のお金の計算をし、自分の家の計算もしてると、母親にちょっとしたものの買い物を頼まれて「払うは」って言われても、「いいよ、それぐらい」ってなって、わずかでももらおうと結局また年金が足りないって言われた時にお金持ち出しが増えたらなっと思って、ちょっとぐらいのこと（お金）はこっちでこっちでってしてると、結構それもやっぱり長くなってくると結構かさんできたなとかは思うけれど。でも、できるだけ今ある蓄えも先がいつかわからないから、あんまりどんどんも使えないし、それこそ一年ぐらいだったら全然余るかもしれないけれど、「十年だったどうする」みたいな。年齢的には二人とも83とか84なので十年でも90半ばぐらいなので可能性はありますよね。だからそうした時に平均的に今あるのを上手に使っていかないと最終的には大きなお金を自分たちでださなければいけないとか。あと、その仏壇があるけれど娘ばかりだから誰も仏壇をひきとらないから、仏壇の処分費用がかかるとか、そういうの思うと、そのお金もっておかなければと思うから、だからそれを自分がお金がなくなった時に姉や妹に毎月ちょっとずつだしてと言うのは難しいので。そうすると、自分たちが持ち出ししないといけなくなったら、まだ自分の子供も学校行ってるし、十年だったら主人も定年になってるから自分たちの生活もあるので、自分たちの蓄えもしないといけなし、結構いろいろ悩みはつきないです。

⑪役立つ助言

今父が入っているところは、比較的みなさんからは良くしてもらっていて、ケアマネジャーもいろいろ相談にのってくれるので、やっぱり困った時にいろいろ知恵をだしてくれると、それを参考に「あっ、どうしようかな〜」とか「こんなんはあるかな」というのも思い浮かぶけれど、ただ、家で一生懸命看てる人は毎日が毎日がいっぱいだから目の前のことだけで何とかしたくてもなかなか頭が働かないから、もっとケアマネジャーとかそういう人たちが「こうしたらよくなるんじゃないか、楽になるんじゃないか」とかアドバイ

スがあると、ちょっと違うかな（と思う）。あと、同じことばかりどこに行っても聞かされるだろうけれど、ちょっと愚痴でも聞いてくれると気分的にたぶん（いい）ね。看てる者はどうにもならないことはわかっているけれど、自分のしんどいのを誰かに聞いてもらって、それに（対して）「そんなやり方あかんよ」って言うんではなくて、それに同調してくれて「がんばってるよ」って言うだけですごく救われるっていうのがあると思うので、そういうふうにしてもらえるとたぶん家で看てても、その一瞬だけでもちょっと気持ち楽になることあるかな～というの思います。

⑫嬉しかった言葉

姑をはじめ看ていた時に、毎日しんどくって、誰にもわかってもらえなくって、仕事から帰ってくる主人に、今から思えば疲れて帰ってきてるのに悪かったと思うけれど、「こんなこと言われた、こんなでしんどい」って言った時に、旦那が「そんな文句言うんだったらでていけ」って言われたことがあって、（そのことがあって）もう誰にも言われないうちでいた時に、この介護家族の会を知って行って、自分自身は一生懸命やっているけれど自分のやり方がまだたらないんじゃないかとずっと悩んでいた時だったから、話聞いてもらった時に、前の会長さんとかが「若いのにすごくがんばってるよ」って言ってもらって、それでいっぺんに気持ちがすごく救われたかんじがして、「あ～、がんばろう」って思ったことを覚えてます。それがすごく一番しんどかった時だったから、誰にも理解してもらえなかったのも、それが一番救われて、それからもしんどかったけど、いろんないっぱい介護経験している人のいろいろ聞いて、「あっ、自分一人違うな」と思って「まだ若いんだからまだまだがんばらな」と思って、愚痴も言いながらなんとかがんばれたかなって思いますね。

（6）ヒアリング内容 O.D 氏

対象者 O.D 氏（男性、妻を介護）

期 間 平成 26 年 3 月 17 日

時 間 120 分間

場 所 あいびあ泉南

①経済的問題

私が一番困ったのはお金です。57 歳で定年で、サラリーマンは月給取りだから家に蓄えがない、年金は 60 歳からなので、その 3 年間は（収入が）ない。小さい会社にいるからそんなに退職金ももらっていない。あの時に助かったのが、退職金を 10 年間月払いにしたのと、失業保険が 1 年間 300 日全額でたことと、たまたまつきあいに入った生命保険が満期になってこと。安いものだけれど若い時に入っていたもので。嫁さんにいったら嫁さんは何もない、保険もかけてない、私がかけていたのだけで手当てももらって。年金もらうようになる 3 年間、彼女の障害年金でようになるまでの 3 年間はもう……。もともとあんまり浪費家ではないと自分では思ってたけれど、嫁さんに言わせるとかなりの浪費家みたいだけでも、つめてつめてやって。その間にその病気が治るという意識

があった。だから、はり医者みたいのところも通って、ここから大阪まで1回に6千円も7千円もするはり（頭に刺す）に行ったけれど、一向に良くならなくて。家に帰って散歩させても3日続けたら「もうしんどい、もう行かん」って行かないし。結局、お金はだんだん無くなってくるは、なのでその3年間はだいたい切り詰めてた。

②認知症の理解

私、介護そのものは一つも苦になっていないんです、やったことなかったけれどご飯作りもやって、いろいろパソコンから料理のレシピをひきだして、それにならって作ってやって、別にそんなんでも気にはならないし、しんどいとも思わない。だけど、本人に治すという意識というか、こっちが強制しても結局途中で拒絶反応おこして「しんどい、もうドキドキする」って歩くのも歩かないし。人間が小さいのかもしれないけれど、きっちりしたいんですよ、血圧はこの時間に起きて測ってと。でもちゃんとしないんですよ。それでぐちぐち言わないといけないし、その辺のあれがね（ひどい）。でも一番不安だったのは3年間の金が無いのね。介護やるのに抵抗がないからやったけれど。その頃は「お前が悪い」とか何も言わなかったけれど、それが10年ぐらいたってくるとぼちぼち「お前がこの病気にさせたんや」とか言いだして。今が一番精神的にえらいんですよ。攻撃的に物事を言う、完全に私に拒絶反応をおこしているから、それでくるから。最初の3年間はお金で、今、まだ終わりじゃないけど、まだ先があるけれど、今がここにきて一段と精神的にきびしくなっている。

③攻撃的言動（BPSD）

一昨日の話ですが、座ってたら「お前どついたらるか」って杖をあげて「あほか」言ったけれど。そういう言葉が（でてる）、私にも「お前」呼ばわりです。「お前が悪いんや」「お前がこんなんした」「電気ちびるから、目が見えんからそこらですべてこけた」とかね。とにかく物事が大雑把なんですよ。私が小さいから、細かいこときちきちする方だから、そのへん男と女が逆みたい、性格的にね。今、一方的に攻撃してきてね。

④副介護者がいない方が良い（自律的に介護をしたい）

昔は、元気な時は何にも言わない人でね。何も言わないのはいいけど言ってものを説明してもわかる人ではなかったですし、相談ごとには一切関知しない。筋道たてて話してもわかる人でなかったのね。私が途中で退職を考えてて嫁さんに言っても「私関係ない」みたいな顔して知らん顔してるから、もうそんなん言わないですし。一番楽なのは身内に干渉者がいないのが（いい）。娘等も私にまかせっきりなんですよ。4人いる嫁さんの方の兄弟もほとんど「どうですか？」っていう電話もなく、ほったらかしとか言ったらおかしいけれど、ほったらかしで。だから、そのへんは楽なんですよ。私の思うままに（できるし）、まかせっきりだから。そういうことに対しての圧迫は何も感じてない、楽でいいからもうほっといていい。そういう精神的に圧迫うけることはないです。

女房の兄貴と姉さんといるけれど、まったく連絡ないし、私も連絡することないし。もうその方が楽ですよ。

⑤自律的に介護をする

来てへんに（いろいろ）言われても、ただこっちが気をつかうだけ。たまに何かの時に会っても「お世話になります」とも言わないし、こっちも「世話してます」とも言わないし。「こんなんですは」で話が終わる。だから楽なんですよ。それと、情報が入ってくる、家族の会やそういう人の声が割と（耳に）入ってくるし、自分からも積極的にあちこち行ってみたりとかするから、自分が情報を集めて自分でとびまわってやって（る）。だから、介護そのものにはあまり苦痛を感じていないね。好きだから料理のレシピも集めてかなりたまっていますし。作ったものにケチつけて嫁は喜んでくれない。

⑥頻繁な排泄介助（夜間）

今は介護の量もだいぶ増えてきて、一日中、トイレの時のパンツの上げ下げ、ポータブルにはしているけれど。寝る前にも時間決めてするように言ってるけど。薬も今一包にしてもらって朝昼晩寝る前とだして、それを飲んで。11時を最終にして晩の寝る前のオムツをして、そして朝の3時に起きてオムツを取り換えて、それから6時半ごろに起きてご飯の支度をして。今、病院に火曜と水曜リハビリに行ってるんですよ。月曜と金曜がデイに行ってるんですよ。木曜と土日は空いていて何もしてない。11時にそれやって、その後「はよ寝」って言われる。「電気つけていつまでもパソコンしてないで、はよ寝」言われて、「用事済んだからって、スって寝れるもんちゃうわ、ちょっと落ち着くまで寝られへんわ」って自分も言って。言ってもわからない、そういうことの意味が全然ないんですよ。なので、この頃寝るのが12時になってる。で、朝の3時過ぎに起きて朝（繰り返し）。また寝る前やらなんやらに「のどが渴いた」としんぼうしない。すぐ飲み物飲むから、12時におしっこさせて大きいオムツして、朝の3時過ぎに交換すると、もうオムツびちゃびちゃですよ。1か月に1回か2回「今日はしてないな」ってことがあるぐらいで、びちゃびちゃでたまにはパンツまでぬらして。普通のパンツはいて尿とりのあれ（パット）するから、かなりしっかりしているのに、それでも漏らしてパンツからズボンの方までぬらすから。それで、3時から6時の間は小さい普通の尿とりつけて、外にでていく時には大きいちよっともついいやつをつけて。それで、朝（デイ）行くといっても、気がむく日とむかない日（があって、むかない日は）とちんたらちんたらしてなかなか行かない、デイの人が迎えに来るまで座っているし。気がむいた日は早く「今日はデイ遅い」って「今日いつも待ってもらうから今日は待つんや」って。もうきまぐれで。今まではトイレに行ってたんですけど、いっぺんポータブルつけたらそれがもう……。普通女の人オムツするの嫌がるけれど、（うちは）平気。トイレ行かないでオムツするの普通みたいに。前にしてる（？）から、おしっこのでるでないの境界が、でそうみたいのがわからないようで。いきいたいと思ったらすぐだから。時々大の方も失敗している。

⑦介護者の体力の不安

若い時は体重も少なかったけれど今は増えて70何キロあるからね。足がまっすぐには

なるけれど、曲がらない。ソファに座ると立つことができない。レンタルで借りた手すりをつけてるけれど、このごろはそれでも立つことができなくなって。ソファに座ったら立たせる、トイレいったらオムツを上げたり下げたりしないといけない、食事する時の椅子からも立つことができないので「起こせ」って言われて。しょっちゅう言われるんです。で、言われたらすぐ行かないといつまでもうるさいんです。あと、電話。電話なったら「電話電話」（言うし、）携帯なったら電話でるまで「電話電話電話電話」って。「誰から？何の用？」って。一日中そういうかんじで、朝から晩まで小間使いでいなくちゃいけない。

⑧嫉妬妄想の対応

買い物行ったら（自分）なかなか戻らないから「どっか他に女おるんやろう」とか（言われる）この前（秋ごろ）に「外でも散歩してこようか」と思って晩に支度してでかけたのが2、3日続いたら、「このごろ毎晩でていく、どこの女のところに行ってる？」とばかげたことを言われる。

途中まで反論しかけるけれど、結局説明しても説明を一切受け付けないし理解しようとしないので話をやめてしまう。そうすると「都合悪い時は黙る」とか言うからね。黙ったら黙ったであれやし（言われるし）、しゃべったらしゃべったで「あんたに言いくるめられるから私は負ける」とか言われて。介護そのものは苦にならないけれど、そういうのが今の一番の悩みです

(7) ヒアリング内容の共起関係からの並び替え

ヒアリング内容を、読み込み文脈ごとに以下のタイトルを命名した。映像教材を作成するにあたり、対象者4名を関連の深さ、ならびに共起を踏まえタイトルごとに並び替えを行う作業の準備作業をした(表3、4、5、6)。

表3 対象者 K.A氏の語りカテゴリ分類

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">①認知症の気づき②認知症の告知時のショックと落胆③治療薬への期待④在宅生活中の障害⑤金銭管理ができない⑥金銭管理の障害への対応⑦行動を抑制での興奮⑧失語による苛立ち⑨常同行動：家庭内⑩常同行動：外出⑪社会生活での問題の発生：買い物の返品⑫認知症の症状が周囲に理解されない⑬認知症を理解してもらうための地域への働きかけ⑭社会生活の問題：ルールが理解できなくなる⑮社会生活の問題：トイレの男女が分からない⑯バイクの運転から自転車へ⑰自転車での周回⑱周回中の事故：ひき逃げ⑲認知症の人の在宅生活のリスク⑳在宅介護の限界を感じた時㉑家族が感じる認知症の人の素顔㉒近隣の人から理解を得るための方法㉓専門職の人から言われて嬉しかったこと㉔助かったこと㉕介護者同士の交流㉖振り返ってみて：在宅介護の課題 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

表4 対象者 0. B氏の語りカテゴリ分類

- | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ①介護初期の困難と家族の会との出会い ②在宅介護の限界を感じた時 ③治療薬の不安 ④排泄介助の問題 ⑤自分自身の将来不安と被介護者のADL低下に対する不安 ⑥介護サービスへの不安感 ⑦介護サービスの利用について ⑧介護サービス事業所への希望 ⑨介護をされていて嬉しかったこと |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

表5 対象者 0. C氏語りカテゴリ分類

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ①認知症の気づきと戸惑い ②介護役割の引き受け過程 ③施設入所と娘としての葛藤 ④娘介護者としての規範的拘束性 ⑤嫁の役割と家族関係 ⑥診断が遅れたことによるBPSDの悪化 ⑦介護と仕事の両立の不安感 ⑧言語流暢性や失語、見当識障害による排泄介助の問題 ⑨過食 ⑩経済的問題 ⑪役立った助言 ⑫嬉しかった言葉 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

表6 対象者 0. D氏語りカテゴリ分類

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ①経済的問題 ②認知症の理解 ③攻撃的言動 (BPSD) ④副介護者がいない方が良い (自律的に介護をしたい) ⑤自律的に介護をする ⑥頻繁な排泄介助 (夜間) ⑦介護者の体力の不安 ⑧嫉妬妄想の対応 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(8) 映像教材のコンテンツ

本研究で対象となった4名の語りカテゴリ分類を、平準化しそれぞれについて意味付けを解釈したうえで、下記の通り2つのメインチャプターからなる、映像教材を作成した(表7)。

「家族介護者気持ち」では、主に認知症となった家族との生活で感じたことや対応、認知症そのものの捉え方に対する家族の心理状態が表現された場面をまとめたものである。このチャプターを使用想定は、家族の心理を学ぶ上で「1.在宅介護の困難さ」を用い、家族が困惑する介助、家族特有の困難さを理解するうえで「2.認知症の対応での困難」、そして、認知症の対応がうまくいかないことで発生するBPSDへの対応が発生することから、「3. BPSDの対応」とした。したがって、このチャプターでは、すでに介護をしている家族や、今後介護家族となり得る地域住民も視聴することで学ぶことが可能な内容となっている。

次に「家族介護者の願い」では、在宅で介護を継続していくうえで重要となる支援者のあり方を、フォーマルな資源である専門職やインフォーマルな資源である地域住民が学ぶことができる内容となっている。「1.専門職に言われて嬉しかったこと」では、具体的な助言の内容や嬉しかった出来事を学ぶことができる。「2.地域の人・専門職の人への願い」では、とはいえ課題は未だ山積しており不安が残るといふ家族の心理を再度課題として取り上げ、地域づくりの重要性を考える内容としている。

表7 映像教材のチャプターと内容

メインチャプタータイトル	サブチャプタータイトル	中項目	小項目
家族介護者の気持ち 16分17秒	1.在宅介護の困難さ (5分46秒)	初期の戸惑い	日常生活で問題が起こる 頑張りたいたけど先が見えない 覚悟と体調の不安 思い通りにならない苛立ち
		経済的な負担	サービス利用の費用 経済的精神的不安
		周囲の理解が得られない	仕事との両立 地域の理解が得られない 見た目ではわからない
	2.認知症の対応での困難 (3分20秒)	認知症の対応での困難	排泄介助 入浴介助 頻繁な夜間介助 頻繁な排泄介助
	3. B P S D の対応 (7分11秒)	BPSDの対応	介護への抵抗 不穏・興奮 性格変容 常同行動 過食・異食 嫉妬妄想 徘徊 徘徊 徘徊での事故

<p>家族介護者の願い 3分38秒</p>	<p>1. 専門職の人に言われて嬉しかったこと (2分52秒)</p>	<p>専門職の人に言われて嬉しかったこと</p>	<p>助言がもらえた 頑張りを認めてくれた まめに連絡してくれたこと 地域の人から声をかけられたこと 嫌な顔せず対応してくれた 親身になって相談に乗ってくれた</p>
	<p>2. 地域の人・専門職の人への願い (1分45秒)</p>	<p>地域の人・専門職の人への願い</p>	<p>細かな気遣い 地域生活の不安 地域生活の不安</p>

5. 課題と活用方法について

1) 映像教材の活用方法

在宅で介護をする家族を支援するうえで、その担い手として期待される、居宅系介護サービス事業所職員を対象とした研修で使用することを想定し作成した。居宅系介護サービス事業所は、小規模で運営されており、職員も非常勤や時間給職員が多く職場内や職場外の研修にて学ぶ機会は制限される。そのことから、本研究事業で作成した映像教材を用いて、短期間でかつ効果的に実施可能な研修を行うための映像教材として活用されることを目指して作成した。また、当センターが平成23年度に実施した「独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興事業認知症介護家族への支援体制開発・普及事業」で作成した映像教材の改訂版として、認知症介護指導者の活用により、各都道府県で実施される認知症介護実践者研修、実践リーダー研修などでの活用も期待している。

2) 次年度以降の方向性

今年度は、自治体および地域包括支援センターで家族支援を目的に行われている、介護者交流会、家族会等の参与観察と認知症の人と家族の会会員を対象としたヒアリングをもとにした効果的家族支援方法を学習するための映像教材作成を行った。今年度作成した教材は、暫定版であり改訂および増補が必要である。具体的には、高齢者虐待の未然防止ならびに、家族支援に必要となる家族の介護継続、および継続困難となる要因を明らかにしたうえで、家族介護者の声を収集することである。また、家族介護者との具体的なコミュニケーション場面についての支援方法について加えていく必要がある。

また、倫理的な配慮として、協力していただいた家族介護者の所在地域での映像使用を避けるために、地域別の教材作成を今後検討していくことが必要であろう。

謝辞

本研究事業の実施にあたり、家族会等の参与観察の趣旨にご理解いただき、快くご協力を頂きました。仙台市健康福祉局保険高齢部介護予防推進室松本庄平様、会を主催された各地域包括支援センターの職員の皆様、そして、在宅で介護をされておられる多くの家族介護者ならびに関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

映像教材作成に当たりましては、介護生活中にもかかわらず貴重なお時間を割いていただきました。5名のご家族の皆様に改めて深く御礼申し上げます。

皆様の思いを、今後丁寧に、深く受け止め、支援する専門職の方々に伝える努力を続けていきたいと思っております。

平成 25 年度 認知症介護研究・研修仙台センター
運営事業費による研究事業報告書

**認知症の家族介護者の
効果的支援方法に関する研究**

2014 年 3 月 31 日

発行所 認知症介護研究・研修仙台センター
〒989-3201
仙台市青葉区国見ヶ丘 6 丁目 149-1
TEL:022-303-7550/FAX:022-303-7570

発行者 社会福祉法人 東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター
センター長 加藤 伸司
